

J A 自己改革推進レポート（J A 鳥取中央） 1 1 月号

1. 柿「輝太郎」を市場にPR！

J A 鳥取中央柿生産部は10月5日、倉吉市のJ A本所において、京都青果合同とテレビ会議でつなぎ、県オリジナル柿「輝太郎」のトップセールスを行った。栗原組合長と同部の竹原部長が生育状況や選果を動画で紹介し、大玉で秀率が高いことを市場にPRした。

J Aが柿のトップセールスを行ったのは、今回が初めてで、出荷予定の1500ケース(1ケース10^キ)のうち3分の1を出荷する京都青果合同と意見交換をした。「輝太郎」を使用した特製レアチーズケーキを準備したり、柿を試食したりするなどして味覚からもPRした。

竹原部長は「長雨や強風で生育が心配だったが、良い柿に仕上がった。市場の要望には、前向きに検討する」とコメントした。



2. 青壮年部湯梨浜支部と園児と一緒に芋掘りを実施！

J A 鳥取中央青壮年部湯梨浜支部は10月15日、地元のわかばこども園の園児を対象に芋掘り体験を行った。この活動は、耕作放棄地を活用し、次代を担う子どもたちの食農教育や地域貢献活動として今年から始めた。

園児15人が参加し、土や泥に触れ、農作業を楽しんだ。同支部の尾川部長は「園児には掘りづらいかと思ったが、土が柔らかく楽しそうに掘っていてうれしかった。今後も活動を続けていき、子どもたちが農業に関心を持つきっかけになったらいい」と話した。

収穫した芋は、こども園のイベントで園児に配られる予定。同支部では、他にもコスモスを植える「花いっぱいプロジェクト」など地域貢献活動に積極的に取り組んでいる。



3. 女性会三朝支部が会員研修会を実施！

J A鳥取中央女性会三朝支部は10月27日、三朝町で会員研修会を開き、会員など約30人が参加した。

同部の遠藤会長が「みんなで一緒に楽しく有意義な時間にしましょう」と挨拶をした後、講師として鳥取短期大学生生活学科の亀崎教授を迎え、「もったいないを広めよう」と題した講演を行い、SDGsの様々な取り組みについて知識を深めた。

講演後、「家の光」を活用した「押し花入りフラワーボールペン」作りに挑戦した会員たちは、トレーシングペーパーに並べた押し花を透明シールで挟み、ボールペンカバーの内側にはめ込んで個性豊かなオリジナル作品を完成させた。



以上